

免疫血清分野

09-014

日時：平成 21 年 05 月 21 日（木）18：30～20：00；京都保健衛生専門学校 視聴覚室

参加人数：8 (8)人 分類：専-20 点

主題：HBV コア関連抗原(HBcrAg)の基礎及び臨床での有用性

講師：江川 孝則 氏 ((株)富士レビオ カスタマーサポートセンター)

まず HBV 関連抗原(HBVcrAg)の説明の前に、HBV の基礎的内容や HBV 関連マーカー検査について、HBV ジェノタイプ、変異株の説明をされ基礎的な内容を理解することができ後半にかけては HBV 慢性肝炎の治療、ラミブジン、アデホビルなどの抗ウイルス薬に対してのモニタリング検査項目である HBV 関連抗原(HBVcrAg)の測定原理や臨床的意義についての説明がなされた。

現在でも広く抗ウイルス薬モニタリング検査として HBV-DNA が普及しているが、今回の研修では HBV-DNA が検出感度未満となった場合でも抗ウイルス薬中止により肝炎が再燃することがあり、抗ウイルス薬モニターに不十分で HBV 関連抗原(HBVcrAg)では検出感度未満となった場合、抗ウイルス薬中止しても肝炎再燃が見られないことが殆どであることから抗ウイルス薬中止の指標として有用であるという説明がなされた。

臨床の現場ではまだ HBVcrAg の有用性が理解されていない部分もあることから、検査から積極的に臨床へ働きかけるべきだということも教えられた研修会であった。

平成 21 年 07 月 01 日報告：荒賀 智永（綾部市立病院）